

卯辰山・心の道コース

変化に富んだ眺望「山麓寺院群と自然景観との融合」

標高141.2mの卯辰山。望湖台に立つと市街地北部のまちなみが眼下に広がり、遠くの河北潟や日本海が、銀鱗のような輝きを放っています。山麓の寺院群では、社叢林を往来する鳥たちのさえずりが共鳴します。

望湖台 → 横空台 → 月見台 → 卯辰山工芸工房 →

うぐいす台 → 心の道(龍国寺、心蓮社など) → 小坂神社





●望湖台

標高135mの望湖台からは市街地のみならず河北潟、日本海まで雄大な景観が一望でき、まちの灯りを楽しむ夜景スポットとしても有名です。振り返れば戸室山、奥医王山などの山々が松林の間から姿をあらわします。望湖台の一角には、三文豪の一人・徳田秋聲の文学碑が建てられています。

●横空台から山頂へ

横空台では、それぞれ違った表情のマツが数多くみられます。人の手による造形とアカマツが持つ素材とが調和し、互いに競い合っています。季節によっては、雪を頂く白山や立山が遠望できます。

陸橋を渡り、月見台に進みます。眼下に見えるのが花木園。卯辰山スキー場跡地を造成した斜面には、12種のツツジやヤマザクラ、ハナミズキなどが季節に応じて花を咲かせます。月見台周辺は、まさに樹木の宝庫。森林浴には最適です。いくつかの石碑がみえてきます。そのひとつは「卯辰山公園創設記念碑」。この碑あたりが卯辰山山頂ですが、意外と知る人は少ないようです。

●うぐいす台周辺

卯辰山の中腹、登窯と数寄屋風造りの建物がみえてきます。金沢の優れた伝統工芸の継承発展と文化振興を図るための工芸の総合機関、金沢卯辰山工芸工房です。うぐいす台とよばれるこの一帯は、桜並木が連なり大小の枝ぶりも見事で、花見シーズンには、桜色に染まったトンネルの中を歩いていく気分です。遊歩道も快適で、エゴノキ、ケヤキなどの樹木を観察しながら緩やかな坂道を下っていきましょう。

夕見坂緑地の手前、一転して左の細い急な階段を下ります。

●心の道

心の道とは、天神橋近くの静明寺から山の上町の小坂神社までの約2.6Kmの卯辰山山麓寺院群をつなぐ散策路で、うぐいす台から下りてくると、心の道の中程のみちすじに出ます。

まずは龍国寺。卯辰山の緑と対照的な赤い鳥居が印象的で、加賀友禅の始祖・宮崎友禅斎の墓と句碑があることで有名です。境内は、1,000本を超える樹林で、ケヤキ、スギ、タブノキなどの緑が友禅堂茶室を優しく包んでいます。人形供養で知られる真成寺、横の階段を上がって狭い道を進み、本光寺裏手から境内に入り山門の階段を下ります。

重伝建地区に選定された卯辰山麓の狭く曲がりくねった小路を進むと、全性寺。朱塗りの仁王門に掛けられた大きな草鞋わらじに心惹きつけられます。このあたりから美しい土塀が続き、山麓の静かな寺院の佇まいにさらなる魅力を導き出しています。市指定文化財の妙国寺の山門をくぐり妙圓寺を経て、落ち着いた趣が漂う心蓮社へ。



(全性寺付近)

心蓮社の樹林は、卯辰山の北西斜面のほぼ末端に位置し、この傾斜を利用して斜面に残っているタブノキ、ヤブツバキそして自然木で生育が北限といわれているツクバネガシなどの自然木を借景しゃっけいとして取り入れています。名勝として市指定文化財となっている庭園は、築山池泉式の書院庭園で、遙か遠い江戸期の面影を今に語り継いでいます。

敷地と山腹の深緑を調和させ、静閑な佇まいをみせる光覚寺から善導寺の墓地霊園沿いの登りを上がりきれば、再び通りへ。

うぐいす台から続いていた桜並木の終点で、付近には、陶工・青木木米指導で開かれた春日山焼窯跡もあります。

●小坂神社から境内雑木林へ

小坂神社は、奈良春日社の分社として建立され、大災を被った後、前田利常の代に再建されました。神社参道沿いにはタブノキ、モミジ、スギ、モミ、コナラなどの大木が枝を広げ、青い空にそのシルエットを浮きたたせています。拝殿右横から境内雑木林に入ります。若葉の香りが心地よく、静寂の中、シジュウカラが樹皮をついばみながらエサを求めて渡ってきます。